

第44回
全国育樹祭 北海道
2020

基本方針



目 次

I 開催方針

1	北海道での全国植樹祭・全国育樹祭の開催状況	1
2	開催の基本的考え方（理念）	2
3	開催コンセプト	2
4	大会テーマ	3
5	シンボルマーク	3
6	ポスター原画	3

II 開催概要

1	全国育樹祭行事	4
2	併催行事等	6

III 運営方針

1	運営体制	8
2	輸送・宿泊等	8
3	式典参加者	8
4	その他	8

IV 広報・協賛

1	基本方針	10
2	広報・PR	10
3	記録	10
4	協賛	10

V 開催準備スケジュール

	開催準備スケジュール	11
--	------------	----

第 44 回全国育樹祭 基本方針

全国育樹祭は、天皇皇后両陛下が全国植樹祭においてお手植え・お手播きされた樹木の皇族殿下によるお手入れや、参加者による育樹活動を通じて、国民の森林に対する愛情を培うことを目的に、全国行事として、昭和 52 年以来、毎年秋期に開催されています。

北海道では、森林や木材に触れ、親しむことを通じて、道民の豊かな心を育む「木育」の取組を進めています。

全国育樹祭は、参加者に対して枝打ち等の育樹活動を通じて、継続して森を守り育てていくことの大切さを伝える行事で、北海道が進める木育の理念にも合致し、その取組を加速させるものであることから、平成 32 年の第 44 回全国育樹祭を北海道で開催することとしました。北海道での開催は昭和 62 年の第 11 回全国育樹祭以来、33 年ぶり 2 回目となります。

なお、同年は 2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催年でもあることから、これと併せ、木の良さや価値を発信する絶好の機会となるものです。

この基本方針は、このような意義をもって開催する第 44 回全国育樹祭が、円滑に進められるよう、基本的な事項を定めるものです。

I 開催方針

1 北海道での全国植樹祭・全国育樹祭の開催状況

(1) 第 12 回全国植樹祭(昭和 36 年)

第 12 回全国植樹祭は、昭和 36 年 5 月 24 日に支笏湖畔（モーラップ地区）に天皇皇后両陛下をお迎えして開催し、「積雪寒冷地帯の拡大造林と屋敷林の造成」をテーマに、アカエゾマツのお手植えや参加者による記念植樹などが行われました。

(2) 第 11 回全国育樹祭(昭和 62 年)

第 11 回全国育樹祭は、支笏湖畔（モーラップ地区）と野幌森林公園において、昭和 62 年 9 月 13 日～14 日に皇太子同妃両殿下をお迎えして開催し、「植えた夢 つないで育てて 森づくり」をテーマに、第 12 回全国植樹祭で天皇皇后両陛下お手植えのアカエゾマツのお手入れや、記念式典などが行われました。

(3) 第 58 回全国植樹祭（平成 19 年）

道内では 46 年ぶり 2 回目となる第 58 回全国植樹祭は、平成 19 年 6 月 24 日に苫小牧市字静川（苫小牧東部地域「和みの森」）に天皇皇后両陛下をお迎えして開催し、「明日へ 未来へ 北の大地の森づくり」をテーマに、アカエゾマツやミズナラなどのお手植えや参加者による記念植樹などが行われました。

2 開催の基本的考え方（理念）

森林は水を蓄え、豊かな生態系を育み、私たちの生活を災害から守るとともに、私たちは、先人たちが植え、育てた木を住宅や家具のほか食器や遊具など生活の一部として利用しています。そして次代の子供たちのために、また、木を植え、育てていかなければなりません。

北海道では、森林が私たちにもたらす恩恵や、木の持つ優しさ・温もりに触れ親しむことを通じて、豊かな心を育む「木育」の取組を進めており、これまで、森林づくりを進める「北海道植樹祭」や木製遊具を展示・提供する様々なイベントを行ってきました。

道としては、北海道で生まれた木育の取組を加速させ、道民一人ひとりに浸透し、道民運動として定着していくこと、そして全国へと取組の輪を広げていきたいと考えております。

道民全体で森を守り、育てていくために、第44回全国育樹祭の開催までの期間においては、環境や教育のほか食育など幅広い関連行事等と連携しながら、多くの道民に木と触れ合う機会を創出します。また、全国育樹祭の開催にあたっては、道民との協働による森林づくりを一層進めるため、多くの参加者が木育を体感できる取組とし全国に発信するとともに、全国育樹祭の開催後も市町村や民間団体等において、全道各地で育樹活動や木育イベントなどの取組が継続されていく契機となる大会を目指し、「森を育て、木とふれあい、豊かな心を育む」ことを基本理念とします。

<参考：第58回全国植樹祭での開催理念>

～道民との協働による森林づくり～

北海道にふさわしい、豊かな生態系をはぐくむ森林を守り、育て、将来の世代にしっかりと引き継ぐ

3 開催コンセプト

基本理念を踏まえ、全国育樹祭を一過性のイベントとして終えることなく、育樹活動等を通じて、広く道民に木育活動が浸透・定着していく育樹祭に取り組みます。

森や木とふれあいながら、木の温もりを体感し、森を守り育てて次世代に継承する

市町村や各地の漁業協同組合など多様な主体による植樹活動は、全道で展開されるようになっていきます。植えるだけでは木は育ちません。森林づくりには、植えた木をしっかりと守り育てることが必要であり、全国育樹祭の開催を契機として、多くの道民が継続して森林づくりに携わる機運を醸成し、森林がもたらす恩恵や木の持つ優しさ・温もりを体感できる取組を進めます。

そして、大きく育った森や木の温もりを次代を担う子供たちの手に引き継いでいくことを目指します。

<参考：第58回全国植樹祭での開催コンセプト>

3つの“C”の取組の継承

Continuation 森林の持続～みんなでつなぐ～

Collaboration 道民との協働～みんなでつくる～

Circulation 資源の循環～みんなでつかう～

※ 開催理念や開催コンセプトは大会テーマ等の公募時に道の基本スタンスを明示するために使用します。

4 大会テーマ

平成 30 年度中に、第 44 回全国育樹祭の開催理念やコンセプトを表現する「大会テーマ」を公募し、選定します。

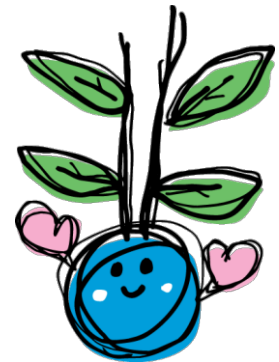
5 シンボルマーク

平成 30 年度中に、第 44 回全国育樹祭に込められた思いを象徴し、併せて開催機運を高める「シンボルマーク」を公募し、選定します。

なお、平成 19 年の第 58 回全国植樹祭で選定した「芽森（メモリー）」は、現在でも木育活動のシンボルキャラクターとして活躍していることから、シンボルマークとしての使用継続も検討します。

6 ポスター原画

平成 30 年度中に、第 44 回全国育樹祭のイメージを表現する「ポスター原画」を道内の小中高校生等から公募し、選定します。



芽森（メモリー）

Ⅱ 開催概要

1 全国育樹祭行事

(1) 式典行事

道内外から多くの参加者をお招きする全国育樹祭の中心的行事として、皇族殿下のお言葉を始め、緑化功労者の表彰や緑の少年団の発表、大会宣言等を行います。

ア 開催日

平成 32 年秋期（開催日の決定・公表は平成 32 年 1 月頃）

イ 会場

北海道立総合体育センター（北海きたえーる）札幌市豊平区豊平 5 条 11 丁目

なお、屋内施設であるため、荒天時の式典会場は別に設けません。

ウ 会場設営

円滑な運営に必要な仮設物の設営を行います。会場の設営にあたっては、道産材を積極的に活用します。

エ 参加人員及び内訳

区 分	人 数	内 訳
中央・道外参加者	約 1,500 人	・ 北海道知事と公益社団法人国土緑化推進機構理事長との協議による者 ・ 各都府県知事の推薦による者
道内参加者	約 2,000 人	・ 実行委員会会長の選考による者 ・ 道内各市町村長の推薦による者 ・ 一般公募
出演者・運営スタッフ等	約 1,500 人	・ 出演団体（アトラクション、緑の少年団等） ・ 式典音楽隊（吹奏楽隊、合唱隊） ・ 実施本部員
合 計	約 5,000 人	

オ 式典の基本構成

全国育樹祭の開催方針に基づき、大会テーマを象徴的に表現した式典とするため、基本構成はプロローグ、式典、エピローグの 3 部構成とします。

○ プロローグ

式典開催前に、道内外からの多数の参加者に対して、歓迎の意を込めたアトラクションを企画し、実施します。

○ 式典

屋内施設のメリットを活かした音響・照明等により演出効果を高め、大会テーマに沿って、皇族殿下のお言葉や緑化功労者の表彰などの式典行事を行うとともに、参加者の記憶に残る北海道らしいメインアトラクションを企画し、実施します。

○ エピローグ

式典に参加いただいた方に感謝の意を含め、式典行事のフィナーレを飾るアトラクションを企画し、実施します。

(2) お手入れ行事

平成 19 年の第 58 回全国植樹祭で天皇・皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れする「継続して森を守り育てていくことの大切さ」を象徴する行事を行います。

なお、荒天の場合、お手入れ行事は中止します。

ア 開催日

式典行事の前日

イ 会場

苫小牧市字静川（第 58 回全国植樹祭開催地）

ウ 会場整備・会場設営

○ 会場整備

会場となる第 58 回全国植樹祭開催地（苫小牧市字静川）で、円滑な運営に必要な整備を行います。

○ 会場設営

お手入れ行事箇所にて天皇皇后両陛下がお手植え・お手播きされた樹木を移植し、第 58 回全国植樹祭の説明パネル、参加者席テント等の仮設物の設置を行います。製作に当たっては、第 12 回全国植樹祭で参加者が植栽したアカエゾマツのほか、道産材を積極的に活用します。

エ お手入れ行事の概要

○ パネル展示等 御覧

北海道知事より皇族殿下に第 58 回全国植樹祭の様子及びお手植え樹木の生育状況御説明

○ お手入れ

皇族殿下による天皇・皇后両陛下お手植え樹木への枝打ち等のお手入れ



第 58 回全国植樹祭の様子(北海道)



他県の様子(2017 香川県)

(3) 参加者による育樹行事等

広大で多様な森林を有し、木育の発祥の地でもある北海道の特色を活かして、多くの道民が参加し、育樹の大切さへの思いを共有できる育樹・木育活動を実施します。

ア 開催日

式典行事の約1ヶ月前

イ 会場

苫小牧市字静川（第58回全国植樹祭開催地）をメイン会場として、道内各圏域に分散して設定

ウ 行事内容

- 植樹祭開催地等での育樹活動
- 木育関連施設等での木育イベント 等

エ 開催状況の紹介

育樹活動や木育イベントの開催状況を録画して、北海道の紹介映像とともに式典演出のプロローグ等で放映

(4) 懇談会

皇族殿下の御臨席を仰ぎ、大会関係者を招待して懇談会を開催します。

ア 開催日

式典行事の前日

イ 会場

未定

2 併催行事等

(1) 併催行事

ア 育林技術交流集会

林業関係者はもとより、次代を担う大学生や高校生、ボランティア団体など、森林・林業に関心の高い人たちを対象として、森林づくりや林業の成長産業化等をテーマに講演等を行います。

- 開催日 式典行事の前日
- 会場 式典会場近隣地域（札幌市）で選定予定
- 参加人員 約500人
- 行事内容 ・基調講演 ・パネルディスカッション 等

イ 全国緑の少年団活動発表大会

道内及び全国から選出された緑の少年団を対象として、日頃の活動発表や交流を行います。

- 開催日 式典行事の前日
- 会場 式典会場近隣地域（札幌市）で選定予定
- 参加人員 約500人
- 行事内容 ・道内外の緑の少年団による活動発表 ・各種表彰 等

(2) 記念行事

ア 森林・林業・環境機械展示実演会

林業関係者はもとより、将来の森林づくりの担い手である高校生等や一般参加者を対象として、全国の林業機械メーカーによる最新林業機械の展示実演等を行います。

- 開催日 式典行事の当日及び翌日
- 会場 式典会場近隣地域（札幌市等）で選定予定
- 参加人員 約 5,000 人
- 行事内容 高性能林業機械等の展示実演 等

イ 国民参加の森林づくりシンポジウム

一般参加者を対象に第 44 回全国育樹祭の 1 年前記念行事として、森林づくりへの参加の動機付けとなる講演等を行います。

- 開催日 平成 31 年秋期
- 会場 未定
- 参加人員 約 500 人
- 行事内容 ・基調講演 ・パネルディスカッション 等

ウ その他の記念行事

北海道が実施するイベントのほか、市町村や関係団体等が実施する関連イベント等を全国育樹祭の記念行事と位置づけ、全国育樹祭の開催機運醸成のための取組を進めます。



育林交流集会(2017 香川県)



全国緑の少年団活動発表大会(2017 香川県)



森林・林業・環境機械展示実演会(2017 香川県)



国民参加の森林づくりシンポジウム(2017 東京都)

Ⅲ 運営方針

1 運営体制

(1) 実行委員会の設置

道内の関係機関・団体等が一体となって、全国育樹祭の開催に向けた準備を万全なものにするため、平成 30 年度に「第 44 回全国育樹祭北海道実行委員会」を設置します。

(2) 実施本部の設置

全国育樹祭の式典等を円滑に実施・運営するため、平成 32 年度に「第 44 回全国育樹祭北海道実施本部」を設置します。

(3) 緊急対応

荒天時のお手入れ行事の実施判断や非常事態に緊急に対応するための体制を整備します。

2 輸送・宿泊等

(1) 輸 送

全国育樹祭の期間中、借上車両（バス等）及び指定業務車両により、必要な輸送を行います。

(2) 駐 車 場

参加者の円滑な輸送を行うため、式典会場等周辺に借上車両等用の駐車場を確保します。

(3) 宿 泊

道外参加者や道内の遠隔地の参加者を宿泊対象者として、必要な宿泊施設を確保します。

3 式典参加者

(1) 式典参加者の選定方針

森林・林業・木材産業関係者をはじめ、次世代を担う青少年やボランティア団体等のほか、一般公募による参加者など、各界各層の幅広い参加を求めます。

(2) 式典参加者の区分

式典の参加者は、各都道府県知事の推薦等による中央・道外参加者、道内各市町村長の推薦等による道内参加者及び出演者・運営スタッフ等とします。

4 その他

(1) 警衛・警護

北海道警察及び関係機関等との緊密な連携のもと、警衛・警護について万全を期します。

(2) 救護・衛生

医療機関等との連携のもと、お手入れ会場、式典会場等における傷病者の救護体制を整備します。また、飲食等による事故の防止を図るため、環境衛生対策に万全を期します。

(3) 消防・防災

関係機関等との緊密な連携のもと、万一の火災、自然災害等の緊急事態に備えます。

(4) 環境整備

式典会場に総合案内所を設置し、湯茶などを提供するとともに、育樹会場に仮設トイレを設置するなど、参加者が快適に参加できる環境を整えます。

(5) 特産品等展示・販売

式典会場の敷地内隣接地において、道産木製品を始め、北海道の特産品等の展示・販売を行います。

(6) 記念品等

ア 全国育樹祭への参加を記念し、北海道産の記念品を贈呈します。

イ 大会用品のほか、北海道や木育の取組等を紹介するパンフレットなどを配布します。



参加者記念品及び配布パンフレット等 (2017 香川県)

Ⅳ 広報・協賛

1 基本方針

第44回全国育樹祭の開催機運を醸成し、北海道の森林が私たちにもたらす恩恵や、木の持つ優しさ・温もりを多くの道民に啓発するとともに、育樹祭終了後も道民が開催意義を継承し、引き続き、森や木に触れ合うことができ、日頃から木を使う意識が根付くよう広報活動を実施します。

2 広報・PR

全国植育祭の開催理念・コンセプトや木育の取組等について、広く普及・浸透を図るために、次の取組を行います。

(1) 各種イベントと連携した普及啓発

道内各地で開催される植樹祭や、森林体験学習、木工教室などの木育イベントに加え、環境関連行事や記念事業等と連携しながら、道民に向けた事前の積極的な情報発信と、参加・参画への呼びかけを行います。

(2) 広報媒体による普及啓発

広報誌や新聞、テレビ、ラジオなど多様な広報媒体を利用するほか、全国育樹祭専用のホームページを開設するなど適時に広報活動を実施します。

3 記録

第44回全国育樹祭の開催記録を保存するために、記録誌やDVDを制作します。

4 協賛

第44回全国育樹祭の開催方針に賛同する企業や団体、個人を対象に、実行委員会等に対する物品、役務及び金銭の提供、広報・PRへの協力等の協賛を検討し募集します。



記録誌及びDVD(2017 香川県)

V 開催準備スケジュール

次のとおり、開催に向けた準備を進めていきます。

開催準備スケジュール

時 期	準 備 内 容
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none">● 第 44 回全国育樹祭北海道実行委員会の設置● 大会テーマ、シンボルマーク、ポスター原画の決定● 基本計画の策定
平成 31 年度	<ul style="list-style-type: none">● プレイベント(国民参加の森林づくりシンポジウム)の開催● 開催日程の決定・公表● 実施計画の策定
平成 32 年度	<ul style="list-style-type: none">● 第 44 回全国育樹祭北海道実施本部の設置● リハーサル等の開催準備、併催行事・記念行事の開催● 第 44 回全国育樹祭の開催

第44回全国育樹祭基本方針

平成30年6月発行

編集・発行 北海道

札幌市中央区北3条西6丁目

連絡先 北海道水産林務部森林環境局全国育樹祭準備室

011-206-6563 (ダイヤルイン)